

# 資料室便り

交通の専門図書館 **交通経済研究所資料室**

## ■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



### 『鉄道と社寺参詣』

井田泰人編著  
晃洋書房発行  
2025年9月／2,420円（税込）  
所蔵箇所：信濃町

本書は、近代日本における鉄道網の発達が社寺参詣という文化的・宗教的習慣とどのように相互作用していったかを示しており、金刀比羅宮や櫻原神宮、高野山などの具体例を通じて鉄道会社の戦略と社寺・地域の対応を描いている。

鉄道会社はこれまで、割引切符や臨時列車といった多様な誘客策を通じて参詣需要を取り込み、発展させてきた。これにより、鉄道は単なる移動手段の提供だけでなく、地域の文化・宗教活動に深く関与し経済活動に大きな影響を与えた。一方で、利便性の向上は景観や宗教的雰囲気への配慮を要する課題も生み、比叡山では鋼索鉄道の開業を契機に動線整備や規制による受け入れ体制の調整が図られたことも指摘されている。

本書は、鉄道が参詣を便利にしたという側面だけではなく、鉄道会社の経営戦略や社寺側の対応、そして地域社会の変貌という3つの視点からその関係性を描いている。そのうえで、沿線の文化資源と連携した体験価値の提供が沿線価値を高めること、さらに持続可能な観光開発と地域共存の視点を持つことの重要性を問いかけている。（原）

## ■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

### 『世界交通地理概論（増訂）』

富士徳治郎著  
目黒書店発行  
1926年3月  
所蔵箇所：上野（一般公開中）

本書は、東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）の教授であった著者が、交通と地理的条件との関わりを解説したものである。著者は、交通を地上の物資を均一にするため、目的地へ人・物品・思想などを送る地理的現象であるとし、幅広い視点から考察を行っている。

交通は文化の程度や人類の活動（特に経済活動）と深い関係にあり、離れた地点でそれらの差が激しくなるほど、相互の交流は増大する。しかし、その度合いは地形や気候、人口の分布などの条件に大きく左右され、交通機関は各地域で異なる発展を遂げた。発展を支えたのは技術の進歩や政治的・軍事的な力である。第一次世界大戦を経て、航空機が軍用以外の空中輸送手段として広まってきた当時、世界の交通は新たな時代を迎えたとも言えるだろう。著者は、そうした変化の実態を明らかにすることも本書の目的としている。

資料室では、本書の初版（1923年発行）も保管している。わずか3年で100ページ以上も加筆された本書とともに、当時の交通界における活動をお伝えできれば幸いである。

（田邊）

## 資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP (<https://www.itej.or.jp/about>) をご覧ください。

担当：古森崇史、原祥太、土方規義、田邊由佳

